

市民協働会議の協議内容／作業の流れ

【ステップ1】後期計画の点検・評価

第2回～3回（8月～9月）

■手順

(1) 3段階評価

まちづくり評価書を使い、目標値に対する実績値と、市の評価を参考に、政策全体として評価を記入します。評価は、「好調」「横ばい」「不調」の3段階で記入します。

<作業1>

- ①まずはそれぞれ頭の中で評価およびその理由を考える（数分間）
- ②自身の評価を、付箋に書いて貼りだす
- ③分科会で評価の理由について意見交換
- ④分科会で話し合い、評価を確定させる

【総合評価の例】

- 1) 指標が3つあり、横ばい1つ、不調2つ
→不調が多く、全体としては「不調」
- 2) 指標が5つあり、好調2つ、横ばい1つ、不調2つ
→好調、不調同数のため、全体としては「横ばい」
- 3) 指標3つのうち、好調1つ、コロナ禍の影響で数値が急落した不調2つ
→コロナ前が順調な推移であれば、全体として「好調」
コロナ前も不調ぎみであれば、「不調」または「横ばい」

※あくまで例であり、推移、市の分析を踏まえ、ご判断願います。

※目標指標シートについて

「評価」欄は、指標の実績値に対する市の自己評価です。
目標値に対する実績値を表示しています。
実績に対する市の分析等です。



【政策の評価】

--	--

【ステップ2】 絞り込み 第3回（9月）

（2）評価に対するコメント記入

実施計画資料等も参考に、評価に対してコメントを記載します。

<作業2>

- ①それぞれ別紙コメントシートにコメントを記載し、事務局に提出
- ②事務局でコメントを模造紙に反映
- ③次回、それを元に話し合い、分科会としてのコメントにまとめる

指 標		※H29以前は単年度実績																		
市への相談を経て移住した世帯数（5カ 年累計）		<table border="1"><thead><tr><th>年次</th><th>世帯数</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>2</td></tr><tr><td>H28</td><td>6</td></tr><tr><td>H29</td><td>21</td></tr><tr><td>H30</td><td>47</td></tr><tr><td>R4</td><td>25</td></tr></tbody></table>							年次	世帯数	H27	2	H28	6	H29	21	H30	47	R4	25
年次	世帯数																			
H27	2																			
H28	6																			
H29	21																			
H30	47																			
R4	25																			
基準値	目標値（R4）																			
6世帯 （H28年度）	25世帯																			
推移の分析・考えられる要因		評価																		
首都圏での移住相談会への積極的な参加と移住支援を行っていることが移住希望 者・市民に浸透したことにより、増えたものと考えられる。		順調 （＾＾）																		

【ステップ3】提案 第4回～5回（10月）

ステップ2で絞り込んだ政策について、検討用ワークシートを使って、現状や課題（①）を整理し、目指す姿（③）を実現するために“（だれと）だれが”“何を”のか（②）をまとめます。それらを基に、実施計画に反映したい取組として、「まちづくり提案書」に落とし込みます。

検討用フレームワーク

政策1（1）地域資源を活かした特色あるまちづくり

現状や課題 （①今こうだから） 目標指標の推移	望ましい取組や連携 （②こうすることによって） （だれと）だれが	目指す姿 （③こうなることをめざす） 目標指標
・資源が活かされていない。 ・まちづくりに関する政策、施策が認知されていない。 ・バスケの街づくりが進んでいない（指導者） ・情報発信不足	学校・大人・子ども 市民（サポーター）・協力隊・行政 市民・団体・行政 ※民間（実行）と行政（きっかけづくり）	・まちを知る（検定など） ・まなぶとのコラボ ・「バスケの街」の魅力向上（高校生が市民か） ・おもてなし（〇〇大使） ・「バスケの街」の輪をはっきりさせる ・恋文コンテスト最優秀作品の映画化 ・市民活動の意義を明確化・・・「どう活躍させるか」 ・民間レベルで移住者へのPR
＜基本計画＞ 【現状や課題】 ○特色を活かしたまちづくり ○地域資源の活用 ○市の認知度向上と愛着心の醸成 ○移住定住の受入環境	【取組の主体】 ◎各主体間の連携 ○市民 ○各種団体等（NPO・大学等含む） ○事業者等（生産者等含む） ○行政機関	【市の施策】 ①市独自の特色あるまちづくりを展開する ②市の魅力を高め発信する ③移住やUターンがしやすい環境を整える

まちづくり提案書

基本目標1 元気で魅力あるまち

政策1（1） 地域資源を活かした特色あるまちづくり

提案項目	まちを知るコンテンツの充実
提案に至った現状と評価	提案の内容
市民が能代の地域資源を十分に認識しているとは言えない。その原因として、能代がどのようなまちなのか、意識する機会が少ないことが考えられる。	自分たちのまちが持つ地域資源を理解し、市外の方に能代の良さをPRすることができるよう、市民への情報発信を強化する。 （具体案） ○ 能代の街のコンシェルジュを育てるための能代市に特化した「〇〇検定」を市が認定し、市民団体や企業が実施する。 検定合格者を評価したり、インセンティブを与えることで、より多くの市民に参加してもらう。また、まちづくり団体等においても、自分たちのまちづくりに特化した検定コンテンツを制作することで、このまちを深く知ることに繋がる。 ○ 市民自らがまちづくりやボランティアを探して参加できるよう、行政やボランティアセンター等の関係団体、企業が、まちづくり活動をデータベース化し、共有化することでマッチングを図る。 ○ 行政が、恋文コンテスト最優秀作品や、バスケ、宇宙等の地域資源をテーマとした映画を誘致し、エキストラとして市民が広く参加できる機会をつくる。その後、ロケ地を観光スポットとして観光団体等が売り込む。
（・・・ので、）	（・・・が、・・・することを提案する。）
提案に関連する 主な分野別計画	

提案書の内容を踏まえ、市が第4期実施計画（令和7年度～9年度）を策定します。また、進行管理を行う市の分野別計画にフィードバックし、意見を反映させます。